

資料2

年2回入札方式のメリット、デメリットについて

【第5回PETボトル入札制度検討会】

平成25年9月26日(木)
(公財)日本容器包装リサイクル協会

アンケート等の意見、指摘事項

<メリット>

再生処理事業者

- 半年単位で販売価格に応じた入札ができる。
- リスクの分散は期待できる。
- 落札した事業者、落札できなかった再生処理事業者のどちらにも公平にチャンスが与えられる。

製品利用事業者

- 入札のチャンスが二度あれば、相場変動に対応できる確率が高くなると予想する。

市町村等

- 年1回の入札で年間の市況を判断するのは難しいが、年複数回であれば判断しやすい。その上で、落札事業者が契約を完全に履行することを望む。

アンケート等の意見、指摘事項

<デメリット>

再生処理事業者

- 業務負荷増(入札にともなう作業量増大: 入札作業、自治体対応、ユーザー対応(価格・数量交渉)、時間不足、事業者登録との業務ラップ、パレット乗せ換え増等)
- 業務の継続性への対応増(自治体との契約変更によるパレット等の対応、自治体の消費者・保管場所等への説明・連携問題)
- 供給責任の継続性の問題(ユーザーへの供給変動による安定操業・生産への問題)
- 雇用の継続性の問題(確保出来たりできなかつたりした場合の人的対応)
- 人と操業の不連続化等やピーク時対応で安全・品質リスクの増大
- 需給アンバランス(処理能力>市町村引渡し量)の状況では、入札回数の増加がべール価格の上昇を招く可能性がある

市町村等

- 予算で決めた歳入見込みに影響がでる。歳入を充当している別事業に影響がでる。予算計上が困難になる。
- 事業者の変更が生じた場合、再度現地確認を行う必要がある。